放射能健診100万人署名運動ニュースNo.21　2015年8月26日

放射能健康診断１００万人署名運動全国実行委員会　HP:http://housyanoukenko.3rin.net/

連絡先：全国事務局・小山潔　070-5653-7886　nobiscum@wb4.so-net.ne.jp

【7／17福島県交渉】放射能健康被害の医療費補償拡大を求める

放射能健診署名実行委員会・福島　　岡崎（福島市）

７月１７日、福島県に放射能健診と医療無償化を要求し、特に７月１０日から始まった１９歳以上の甲状腺がん医療費の公費負担に関する問題点などを県民健康調査課と交渉した。福島市、川俣町や飯館村などから７人が参加した。

１９歳以上の甲状腺がん医療費の公費負担が県民健康調査を受けた人に限られること（対象者は「約１０００人」）に対し、「すべての甲状腺がん治療者を対象にしてほしい」、また「甲状腺がん以外の病状も公費負担すべき」と要求した。

県の回答は「対象拡大は考えていない。県民健康調査が契機で甲状腺がん治療に移行した人が対象」、「そのほかの病状は、原発事故との因果関係が明確でない」というもの。

参加者から「孫４人が神奈川県に避難したが、慣れない土地で調査を受けたのは一人だけ。どの医療機関でも検査・治療を。差別なく救済すべき。」「成人で甲状腺がんや心臓・循環器疾患、目の病気になっている人は増えている。私も関節痛や目の異常がある。」「原爆被爆者援護法では、甲状腺以外のガンや疾病も補償。もれなく幅広く救済するという被爆者援護制度を援用し福島で同様の制度を作るべき」と口々に訴えた。県は態度を変えず、「他の疾病も視野には入っているが、現在はここまで」と言うに留まった。

甲状腺がん異常多発を「過剰診断」とする検討委員会はおかしい、県の判断は何かと迫ると、県は「健康調査検討委員会の意見を尊重する。県として確定判断していない」と回答。「死亡者数や診療実績数がどれだけ増えれば原発事故と因果関係があるとなるのか。」「原発の汚染水漏れは手詰まり。１７年３月に避難解除と言うが、放射性物質と暮らせということか。」「植物や昆虫の奇形も見聞きする。私もカブトムシの奇形をたくさん見た」との追及に黙って聞いている県だった。８月に健康調査検討委員会があるので、その内容を踏まえて再度県と交渉を持つこととし、この日は終わった。

ところで、今まで放射能なんて気にしないと言っていた人が最近になって「昆虫が減ったね」「鳥が減ったね」と話題にするようになり、人の健康被害が顕在化することを懼れている、そんな雰囲気が広がっていると感じる。薬殺を拒んだ牧場の動物たちの異常死や線量が高い所の木の立ち枯れを含め、生活や家族を奪われて悲しみや懼れに包まれた毎日を多くの人がじっと耐えて生きている。「自分たちの今が何よりも大事」という無思慮な人の言葉にじっと耐えている。

そんな中で県は２０１６年度までに自主避難者への無償住宅供与を打ち切り、５０ｍSv／年までの地域にも帰還を強制しようとする。ガラスバッジは低く出るし、地面に近いほど被ばくするし、モニタリングポストは低く出るような所にしか設置しない、正確な数値はだれも把握できていない。国も県も東電も測ろうとしないし、どの様に測った

か不明で過少な数値だけ時々見せられていると感じる。「後のことは後の人が何とかするだろう」という情報隠蔽体質の中で、人の身体がいつまでも耐えられるとは思えない。

また福島第一原発から数キロの所から避難してきた友人から聞いた話で、「東電から境界確認の立ち会いに呼び出されたけど、既に盛土されて確認しようがなかった」と。私は「土の下に何を隠したんだろうね」って言ったけど、飛散した放射能がれきを屍とともに封印したと思っている。これが東電と国のやり方なのか。　　（以上）

【8/2 全国交歓会分科会】放射能の健康被害を可視化･社会化する方針を討論

８月２日、全国交歓会の分科会「原発再稼働と放射能の健康被害を止めよう」（東京都北区）を主催して、放射能の健康被害を止める運動方針を討論しました。もはや健康被害が無視できない状況下で『私たちは何をするのか？』というテーマに大きな関心が集まり７０人が参加。高汚染地域の福島県各地や千葉県松戸市の市民も参加し健康被害の実態を報告。７月の福島訪問団が聴いた「目の病気、飛蚊症」「心臓病で突然死」「関節の異常」「甲状腺」とほぼ同じ報告に、改めて放射能の影響を実感しました。

★松戸市･香取直孝さん（映画監督／署名運動呼びかけ人）：

水俣の映画を撮ってきた。水俣では高校生が足が悪くて針灸に通っていた。松戸はホットスポット。８月に湿疹やのどが痛くなり、測ったら家の線量は５マイクロ以下のところがなかった。除染作業したら胸が痛かゆい。それで確信。子どもには鼻血、目のくま。事故後に友人が４人死んだ。知人の幼な子はアトピーが酷いが、松戸を離れるとアトピーが出ない。流産や胎盤剥離の早産、心臓欠陥の子も見た。大人にも心臓肥大や白血病、私も心臓が痛い。「福島放射能１００万人殺人事件」だ。細川牧場の映画も撮った。馬の死は衝撃的。自分にこの映画を撮る資格があるのか、自問した。

★福島県二本松市・Ｓさん：

事故時は屋外で７μSv/h、中で３μSv/h だった。妻と子どもを米沢市に避難させているが、長男は「私は大丈夫。福島の人を逃がす」と避難しないがずっと体調悪化、下痢。私は尿管結石、膵臓が悪い。高校の子はＡ２。知人が数人突然死したり、失明、ひざ下の壊死。赤ん坊の流産やエコー検査で障害も見つかる。「俺は気にしない」と言っていた音楽仲間が食道がん、動脈瘤破裂。身の周りにあまりに多い。データを残す必要。福島は見殺し。戦争法といっしょ。

その上で何をするか？細川牧場の支援者や市民測定所のスタッフはじめ何人もが発言し、実に活発な討論になりました。

★「血液検査をしたいし出来るが、医師の採血証明がいる。勇気ある医師を探している。」

「血液や尿、爪、歯を測定する運動が有効。」

「ホールボディカウンター（ＷＢＣ）を全国に設置する運動をしている。国は２５０Ｂｑ／人で切って『不検出』と可視化する。５０Ｂｑ／人まで測れるＷＢＣを揃えて人体汚染を可視化し危険を訴える。学習会を呼びかける。参加してください。」

「市民測定所で土の汚染を測定できる。測定所の連携で土壌汚染地図を作っては？」

「(医師などが) １人ががんばってもだめ。スリーマイル島事故では主婦が一軒ずつ『癌はないか』と聴いて調べた。みんなで福島市で戸別アンケートを集めて健康調査をしよう。」「福島で戸別のアンケート調査に住民が口を開いてくれるか？福島の運動と連携して進める必要がある。」「福島スタディーツアーを受け入れる。福島を見に来てください。」「アンケート調査は福島駅前の街頭署名の実績を見れば可能。話したい人は多くいる。」　この場で参加希望者を募ったら、何人も手を挙げました。

★ 滋賀県の参加者は県議会の避難者支援決議をふまえ、「国がやらないなら県がやれと要求して保養の助成は実現したが、放射能健診の壁は厚い。『国の見解が第一』と。外圧が必要。」　神奈川原発損害賠償原告団副団長の山田さんは「放射能健診を全国化しながら、福島の被害と福島だけでない現状を訴えている」と発言。

★ 以上の活発な討論を受けて以下の方針をまとめました。急ぎ具体化していきます。

①放射能被害の可視化・社会化のために、福島県内外の汚染調査や健康調査の努力をつなぎまとめる「福島健康調査ネットワーク」を作ろう。

②福島アンケート調査は、専門家の援助を受けながら『市民調査団』を派遣しよう。

③被害者が声を上げる「公聴会」を原発周辺や高汚染の関東、福島県内で行おう。

④放射能市民測定所などと連携して、土壌･食品･人体の放射能汚染を監視しよう。

⑤原発被害者の裁判を支援･連帯し１００万人署名を広げよう。目標は年末２５万筆。

⑥原発周辺自治体などへの要請･請願行動を強めよう。

７／３１環境省請願＆署名提出。総計１３６,１４７筆。

福島みずほ議員事務所のご尽力で７月３１日、環境省請願を行いました。要求は、①福島の甲状腺がん手術１０４事例について見解を求める。②福島県県で甲状腺検診を実施。③福島県内外で全般的な放射能健診、の３つです。

①点目は環境省が「過剰診断」と言えず、見解を示せず次回の宿題としました。②点目は松戸市の市会議員も参加して要求しましたが時間切れ。しかしこの日環境省は、甲状腺がんの手術を過剰診断と言えず回答不能となり、実質的に決着がつきました。交渉は甲状腺がんを象徴的に議論する段階から次のステップへ、甲状腺検診を含め要求の②③を前面に出す段階です。今後は福島と関東の全般的な放射能の健康被害を立証し、国の責任を追及します。

放射能健診署名はこの日４７９６筆を提出し、総数１３６１４７筆になりました。もっとスピードを上げて集めないといけません。再度、原発立地はじめ全国に署名を広げる取り組みを強めます。(交渉の詳しい内容は、署名運動ニュース No.22 で報告。)